行儀作法

躾方の根本方針

目白幼稚園　和田實

吾々が子供であつた時に較べると、今日の子供は一般に言葉遣ひが亂暴であり、動作が粗野であることは、誰も否むことは出來まい。(無論、中流の家庭を標準としてゞあるが)之を昔に返さうとして努力して居る人もあるし、不可抗力の大勢として諦めて居る人もあるが、中には眞面目に考へて、一體、行儀作法の躾方の根本方針は何處にある可きだらうか。昔の躾方と今日の世の中に於ける行義作法の仕方とは同じ方針である可きだらうか。又は其處に時世に即した相違があるだらうか二三十年昔の小學校や幼稚園では、先生が子供の名前を呼び捨てにすることは決してなかつたが、今では小學校などでは、子供の名前を呼び捨てにする先生は屢々見受ける。(まさか幼稚園ではない樣であるが)昔の小學校では子供同志と雖も互に「さん」又は「君」の敬語なしには呼ばせなかつたものであるが、今日では、斯樣なことは頗る稀に見受けることゝなつた。言葉遣ひが、既に斯の通りであるから、其他の動作に至つては、固より當り前の事として、頗る粗野になつて來て居る。是等の現狀は當然の大勢として放任す可きもの

か、何等かの對策を講ず可きものか、眞面目な人は思ひ腦まずには居られぬ。一と件の見識ある人から見たら、たわいない事であらうが、保育上の問題としては、確かに一顧の研究を要するものと思ふ。

勿論、今日の中小學生の行儀作法を粗野ならしめたものは、其原因の主たるものは高等なる學生の粗野不行儀に基くものであり、其は又維新の際に於ける所謂、志士國士の不行儀不作法に因するには相違ないが、然りとて、之を昔のまゝに復古しなければならぬものか、其根本方針は何處にあるのか、子供は何時も、貴人の前に於けるが如く、戰々兢々として、恭敬是れ事としなければならぬものか、夫れとも、敢えて、人を恐れず、大道活歩の意氣を備ふ可きか、其思想の根本は何處に置く可きか、是等は一通り敎育者の研究を要することであるまいか。吾等は必ずしも、子供を小笠原流の禮式作法の中に育て樣とは考へては居らぬ。さればとて、先輩や師友の前で、平氣で放屁する樣な今の學生の樣に育てたくもない。夫れには確とした根據のある思想を中心として躾方の根本を握りたいと思ふ。

大人は細瑾を顧みずと云ふ、東洋豪傑流の未開狀態や半文明狀態は、最早、今日の時世の躾方方針としては採る可きものではあるまい。何となれば、元來行儀作法と云ふものは、道德の具體的動作であつて、人格の實際化された行爲であるから苟も、思想と行爲とを一致させ、知行合一の實を示さうとするには、行儀作法も、其人の人格の現はれと見、其人の道德の實際として見らるゝ樣にしなければならないからである。此意味で行儀作法を見ると、中々重大な意義を有する。過般、十年近い外國生活を終へ

て歸朝した或一家族に遇つて、色々歸國してからの感想を聞いて見ると、大人は大して苦痛もないが、子供が彼方の自由に慣れて居るのに、日本に歸つてからは、事毎に大人の顏色を見て「おづ〳〵」と行爲しなければならないのが可哀想であると云つて居つた。考させられる樣な氣がした。日本では謹嚴と恭敬との中に子供を躾け樣として居る。何時も貴人の前での恭敬ぶりを實現させやうとして居る。之が當然の事であらうか、少くも、子供本位の敎育として、適當なものであらうか、子供の生活を子供本來の位置に置かうとし、而して、子供本來の生活を以て、其子供の敎育としやうとする、現今の敎育理想から考へれば、是は明かに間違つて居ることの樣に思ふ。己れに克へて禮に返るで、唯、自分の欲を制し、權利を讓つて、曾讓的の仁を成さんことをのみ心掛けしむることは、最早今日の仕付方ではあるまい。然らば躾方の根本は果して何處にある可きだらうか。少しく吾人の愚見を述べさせて頂きませう。

行儀作法が、人格の現はれであり、道德の實際的行爲である以上は、行儀作法躾方の根本的要求は、矢張、人生の目的、道德の根源から出て來なければならぬ。而して、人生の目的は完全なる自己の實現であらねばならぬ。完全なる自己の實現は、自己の個人生活と對他的生活との兩方面に現はれねばなぬ。然し、此對他的生活には共同的方面と爭鬪的方面とがある。其共同的方面と云つても其中には、犧牲的奉仕的生活をしなければならぬ場合と對等的に共存共榮共樂する場合とがある又、爭鬪方面と云つた所で、常に優勝的な位置に立つて支配者ととなり、權威者となる場合もあれば、劣敗者となつて、被治者

の位置に就き、常に配屬者として、使用人として奴隷的生活をしなければならぬ場合もある。以上種々なる生活狀態が常に吾人の日常生活に現れ來るもので、吾人は夫れ々々の生活狀態に應じて、心得を異にし、行爲を異にしなければならぬ　今、是を見易い樣に表にして見ると

- 人生
  - 個人的生活　單獨的生活
  - 對他的生活
    - 共同的生活
      - 犧牲的生活
        - 子弟としての生活
        - 師長としての生活
        - 親としての生活
        - 奉仕者としての生活
      - 對等的生活
        - 共棲者としての生活
        - 友人としての生活
        - 同乘者としての生活
        - 共樂者としての生活
    - 爭鬪的生活
      - 優勝的生活
        - 支配者としての生活
        - 權威者としての生活
        - 治者としての生活
        - 名望家としての生活
        - 有產者としての生活
        - 家長としての生活
        - 博愛家としての生活

服從的生活
- 雇人としての生活
- 子弟としての生活
- 配屬者としての生活
- 被治者としての生活
- 無產者としての生活
- 無名者としての生活

斯くの如く、人間の道德の現はれる可き方面には種々な場合がある。敎養を經た大人は是等の種々なる場合々々に應じて、身を處し行を訂して行く可きであるが、まだ、敎養の道程にある子供としては、是等種々な場合に常に必ずしも、適切な行爲が出來るとは云はれない。否、斯の如き完全な敎養はまだ、行はれて居ないのである。況して、人間としての生活の一歩を踏み出したに過ぎない幼兒としては子弟としての服從的生活から一歩を擴張して交友の間に友人、同棲者、共同遊戯者としての對等的生活に歩み出でたるに過ぎない。斯く狹い範圍に限られて生活するものの、當然の行儀作法として、要求されるものは、自室內に於ける單特的生活、即ち、寢起に關する生活衣服、住居、飲食等に關する衞生的習慣に屬する生活等の外、對他的には、唯、子弟として師父に從順なる可く、共同者として交友の間に對等的儀禮を持つ外、何等要求せらるゝものはない筈である。卽ち衞生的習慣を守り、師父長者に從順で交友に寬容なれば、夫れ以外には、幼兒に强要せらる可き行儀作法は、其本來の生活上には之を見出す

譯には行かぬ筈のものである。然るに、頑な老人、道德一點張の敎育者に、稍もすると幼稚園の幼兒を驅つて、お客樣には儀禮を極めて交友には多大の犧牲を拂ふ可く要求し、常に、人に對し戰々競々として、忝敬、是れ事とせしめ、己れの欲することも、人の顏色に因つて案配することを學ばせ、惜しき物も他人が欲すれば遣らねばならぬことを强いんとする。凡てが貴人の前に於ける奴隷的服從の禮儀作法である。吾人は斯樣にして此尊む可き幼兒を驅つて、卑屈な生活に導き入れることを恐れるものである。敎育は人をして、協調的妥協生活を奬むるものには相違ないが、然ればとて、人間本來の唯我獨尊的氣概を失はせたくはない。幼兒に强ふるに小笠原流式の行儀作法を以つてすることは、餘りに他人をのみ重んじて、自己を滅却するものである。完全なる自己の發展を目的とする現在敎育の理想から見れば、是は明に謬見と云はぬばならぬ。尤も、吾人はも小笠原流の禮式其ものを排斥するのでは決してない。女學校に於ける禮式の練習は誠に結構である。小學校に於ても、或程度迄は此種の練習を要するであらう。併しながら、是を幼稚園迄持つて來て、常に最大級、最高級式の禮儀作法を强ふることを難んずるものである。幼稚園は幼兒の天賦を伸展せしむ可き筈ではあるが、日常社會的生活に必須なる實際的技能の敎授には緣の遠かる可き筈のもである。禮儀作法は社會的生活上に於ける實際技能の一種である。之を一種の遊戯として、幼稚園の仕事に取り入れることは、勿論、左支ないが、技能傳達の仕事として又は訓練の一事項として幼兒敎育の範圍內に置くことは、極めて不道理であると信ずる。

凡そ、幼稚園の仕事には二つの方面がある。訓練と遊戯とが夫れである。遊戯は極めて自由な性質を有するものであるから、是が幼兒の發達を阻害する心配は先づ尋常の場合に於てはない筈であるが、訓練は生活上の必要に迫られて、當然に仕付けなければならぬ人爲的習慣であるから、家庭の地位、家人の思慮方針等に因つて、自由に變更し改廢し得られ、從つて、種々なる教育的欠陷も出來れば長所も生ずるものである。行儀作法は無論訓練上の一事項であるから、實際の內容如何に因つては長短得失、決して一樣ではない。教育者の大に心す可き點であると思ふ。吾人の見る所では現在の如く、大勢の赴くまゝに放任して、益粗野に傾かしむることは無論よくないが、然りとて、餘りに餘計な、不必要な行儀作法迄も訓練することは要らぬと思ふ。要するに、幼稚園に於ては

一、衞生的生活に屬する日常の習慣的行儀作法

二、父母師傅に對する從順尊敬の行儀作法

三、交友に對する對等的共存的信愛互讓の行儀作法

右の三項に就きて充分に訓練することの必要は是を認めるけれども、其他の行儀作法に就いては之を單に遊戯中の一材料とし、遊戯的一動作として幼兒の生活に取入れることに因つて誘導的幼兒教育の本旨に適ふものとして、之を認むる外、訓練の事項としては到底認め難いと信ずるものである。從つて之を幼兒に强要する樣なことは、斷然排斥しなければならぬと思ふものである。

尙序に、今少し各項の細目に入つて調べて見ると

壹、衞生的生活に屬する日常習慣的行儀作法

一、就寢に關する習慣

時刻、衣服、着換、排便、挨拶、等に關スル一定ノ行動

二、起床に關する習慣

時刻、着換、排便、洗面、挨拶等ニツキテノ一定行動

三、食事に關する習慣

洗手、着席、挨拶、食事等ノ一定ノ習慣

四、一般衞生に關する習慣

清潔(殊に顏と手)　着衣法、食物以外のものを口に入れぬこと、姿勢

五、排泄に關する習慣

排泄方法、場所ノ清潔、身邊ノ處置、洗手

貳、父母師長に對する行儀作法

一、敬禮ノ方法

辭儀の仕方、姿勢、注視、足並等

二、挨拶の仕方

登園、退園、有難うの御禮(何か厄介掛けた時)

三、言葉遣ひ

父母師長に對する言葉遣ひ

ました。ませんか。ですか。ますか。等の語尾を明にすること。(先生是でいゝ?)等單に語尾の强聲のみで問の意を現はす語法ヲ排斥ス

參、交友に對する行儀作法

一、他人の先占權 所有權を侵さぬことの習慣

二、右事項の讓與を受けたるときは感謝する習慣

三、共同共樂の經驗を積ましむる習慣

他人の仲間入を歡迎する習慣を養成すること(强要する必要なし)

以上の細目は最も實際に必要なる個條のみを掲げたもので、是丈は幼兒の日常に、何うしても躾けて置かねばならぬものであるが、此他のものは或は父母、師長、自身の日常生活で、模範を示して誘導し置くか、或は遊戯材料として遊戯中に幼兒に經驗させれば足りるものと思ふ。兎に角幼兒に仕付く可き行儀作法は其本來の生活上必要なるものを、主とすることで滿足し、他は小學校以上の學校教育に讓る

可きであると思ふ。

人或は貴人の前に出た時の起居動作が、卽ち行儀作法ではないか。之を躾けないで何の行儀作法ぞと云ふ人があるけれど、吾人は貴人としての觀念も充分ならず、貴人に對する心得等も充分でない幼兒に、單に形式の上からのみ貴人に對する行儀作法を强いて、徒らに、人を恐れしむる樣な敎育をしたくないと思ふ。斯る盲目的服從の禮儀や奴隷的卑下な禮儀でなく、寧ろ、世間の大人と言ふものは幼兒の進んで親しむ可き做ふ可きものであると云ふ觀念を先づ幼兒の頭腦に入れて置きたいものと思ふ。此意味に於て幼稚園に來らるゝお客樣などは、幼兒の遊戲中のお客樣として、共々に遊戲のお相手と觀せしむる樣にしたいものである。

幼兒敎育は幼兒自身の偉大さを發展せしむる所に意義がある。幼兒自身の偉大さを傷けしむる樣な觀念は成る可く、持たせ度ない。從つて、幼兒生活の本來の必要以外には成る可く、屈從的行爲や、犧牲的生活をさせ度ないと思ふのが幼兒に對する愛撫的敎育眼から見た吾人の希望である。(了)